



# 第2660地区 大阪-淀川ロータリークラブ週報

## ROTARY CLUB OF OSAKA-YODOGAWA WEEKLY BULLETIN

2009～2010年度のクラブ・テーマ

～クラブを楽しもう～

事務所 〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目13番13号 阪神百貨店内11階

TEL : 06-6345-1201(内線2731) 直通 : 06-6348-8437 FAX : 06-6456-2100

e-mail : office@osaka-yodogawa-rc.jp ホームページアドレス <http://www.osaka-yodogawa-rc.jp>

クラブ創立 : 1961(昭和36)年1月14日 例会日 : 毎週金曜日 12 : 30～13 : 30 例会場 : ホテルグランヴィア大阪20階

2009～2010年度 会長 : 高地 健 幹事 : 益山 明佳 会報委員長 : 木本 安彦

## 第2回サモア訪問旅行報告

2009年7月10日～16日



大歓迎の大浪 Saleaaumua小学校

サモア訪問目的

1. MG#61313実施終了に伴う現地査察
2. 友好関係の推進
3. Saleaaumua小学校への今後の援助方針の話し合い

(特に同小学校を対象とする当クラブ50周年記念事業構想実現可能性の判断)

サモアの国花 アナナスの一種



珍しい紫花のヴァーゲンヴィレア Marco氏邸にて



2009～2010年度  
国際ロータリー・テーマ

“ロータリーの未来はあなたの手の中に”  
THE FUTURE OF ROTARY IS YOUR HANDS

R.I.会長 ジョン・ケニー

## サモア訪問スケジュール

日付	空港/場所	発着時刻 / 便名 / 行動予定
7/10 (金)	伊丹空港 成田空港 成田空港	14:20発 JL3006 15:35着 19:00発 NZ090
7/11 (土)	オークランド アピア	09:00着 オークランド観光(ガイド付き) 21:15 発NZ860 02:10着 専用バスでホテルへ(チェックイン) (午前)休憩、朝食 Marco氏より青木に電話での打合せ (11am)ホテル発。タクシーでMarco氏宅、農園訪問 昼食の歓迎を受ける (3:30pm)Upolu島(西部)観光(タクシー) 7:00pm~(dinner party) 招待客4名:Marco氏夫妻・Dr.Leao Tuitana夫妻 Aggie Grey's Hotel泊
7/12 (日)	ウポル サヴァイイ	(早朝)フィッシュマーケット見学(ガイド Peter Paul出迎え)、チャーチ礼拝堂訪問 —希望者のみ— 10:30 ホテル→Ferry乗り場 Mulifanua Wharf→Savaii島 Salelologa Wharf (Peter Paulのガイドとバス)(Marco氏同行) Savaii島観光→ Siufaga Beach Resort (ランチ) Taga Blow Holes、Falealupo (最西端日没)→ホテルへ Vaisala Hotel & Beach Resort(Savaii)泊
7/13 (月)	サヴァイイ ウポル	8:30am 出発→Sapapalii(10:35着) virgins grave(Saleaula)観光(9:45am)後 Lio Foleni Savaii RC会長宅を経てSapapalii Primary School訪問(11:00am) Mata-Ae-Vave Secondary School訪問(11:45am) Savaii RC例会(昼食会)に出席 (Rosalote Resort・12:30pm) Savaii島観光 → FerryでUpolu島へ(5:35pm) (Salelologa Market見学) Aggie Grey's Hotel 夕食 於Paddle's(ホテルの近く) PO Box 67 Apia Samoa Telephone : (685) 22880 Fax : (685) 23626 or (685) 23203
7/14 (火)	アピア	8:00am ホテル出発 10:00am Saleaamua小学校訪問(Marco氏夫妻の車2台) 歓迎会、小学生の集会(殆どの児童、生徒総数185名)、見学、挨拶、昼食歓迎会* *fish/chicken vaisalo(料理)・coconut(飲料) 来賓: Marco夫妻・Savaii RC幹事他1名 Upolu島(東部、中部)観光 5:00pm Aggie Grey's Hotelで夕食 → Marco夫妻の車2台で空港へ 21:35発 NZ863(Marco夫妻が見送り)
7/15 (水)		なし
7/16 (木)	オークランド オークランド 関西空港	00:45着 06:30発 NZ097 14:45着

【参加者】計9名 \*印は前回サモア訪問参加者(abc順)

1. 青木 高\*
2. 青木敏子\*
3. 平田達男\*
4. 木戸友三郎
5. 松井義明
6. 西川正一\*
7. 西崎克由
8. 西崎千加
9. 高地 健\*



サモア訪問団全員9名とMarcoさん、Tauneseさん他 於Savaii島 Sapapalii小学校(7月13日)

### 過去の援助経緯と実績

#### 1. 第1段階 援助対象の特定と寄付のためのサモア訪問

2004年5月からの準備期間2年を経て、2006年4月当クラブ一行9名サモアを訪問 Saleaamua小学校を訪問、同校の窮状をつぶさに見て、その場で10万円を寄付。

黒板・掲示板などの購入に当てた

10万円 = 1.895Tala

黒板のためのハードボード41…… 1112Tala

掲示板8個のためのハードウェア… 720

材料運搬費 …………… 63

#### 2. 第2段階 MG#61313の実施

MG(マッチング・グラント)#61313

Samoaでの援助を本格化し、大規模なWCS活動をするためのマッチング・グラント(MG)申請(2006年9月13日)、本部の承認(2006年12月13日)、MG契約の締結(2007年3月1日)、SamoaにMG銀行口座開設(Savaii R.C.)(2007年3月30日)、US\$11,800\*の入金、とすべての手続きが完了したのを受けて、2007年4月SamoaのMGプロジェクトが実際に始動し、Savaii R.C.の主導で遂行された。

\* 内訳 当クラブ 拠出金 \$ 1,000

Savaii R.C. 拠出金(実際はLatinoamérica e-R.C.拠出) \$ 200

D2660地区援助 \$ 5,000(DDF)

TRF(本部ファンド)援助 \$ 5,600

プロジェクトの内容は:

(1) Savaii小学校の選定と絵本の配布

- ・絵本1,200冊をSavaii60の小学校から7校\*を選定、配布(2007年9月のSavaii RCのレポートから)
- ・対象児童 1,2,3,4年生の1,400人

\*7校と校長名

Salelologa Primary School	Anapogi Moe
Saleavalu Primary School	Ufiufi Lene
Iva Primary School	Avaioia Mariner
Lalomalava Primary School	Lauama Leauanae
Sapapali'I Primary School	Motiana Latu
Safotulafai Primary School	Tofilau Pe'a
Faga Primary School	Avaioia Marine

○:2009年7月13日に訪問した唯一の小学校

(2) Saleaaumua小学校へ絵本を配布(2008年5月)

- ・絵本は同校で独自に選定(Savaii小学校とは別の種類のもの)

(3) Saleaaumua小学校へ机と椅子を寄付:70対(2007年9月)

(4) MG#61313の決算総括

予算項目	業者名	通貨	金額
1. サヴァイの小学校への絵本配布	NiuLeaf 出版	Samoan Tala	12,390
2. 机と椅子	Strickland Brothers	Samoan Tala	11,550
3. Saleaaumua 小学校への絵本配布	NiuLeaf 出版	Samoan Tala	3,500
4. Saleaaumua小学校への絵本配布	NieLeaf 出版	Samoan Tala	1,885.50
5.			
6.			
7.			
8.			
<b>支出合計:</b>		Samoan Tala	29,325.50

(5) TRF(ロータリー基金)への報告

2008年9月26日 白方会長署名の最終報告書を当クラブより提出

2009年3月12日 TRFよりClosure Letter受領

本プロジェクト完了が承認された

3. 第3段階 MG#61313プロジェクトの成果の現地査察

本プロジェクト終了最終レポートのTRF審査がペンディング中なので2009年後半の第2次サモア訪問を当初考えたが、サモアが当クラブ50周年記念事業の一候補であることから、訪問予定を早めるようにこの理事会の要請を考慮して2009年7月の訪問となった。

主要行事(7月11日(土)～14日(火))

1. Marco氏農園訪問(7月11日)

Marco Kappenberger、Maria Ines夫人主催昼食会

2. 公式夕食会(7月11日) <招待客:Marco夫妻、Leao Tuitama夫妻(内閣副大臣)>

青木が来訪の経緯、目的を説明

訪問団員、招待客の全員が夫々スピーチ、Leao Tuitama夫妻に手土産贈呈



Marco氏夫妻に贈物を手渡す



公式夕食会出席者全員で記念撮影

3. Savaii小学校訪問(7月13日 10am～)

Sapapalii Primary school を訪問

- ・生徒数 二百数十名
- ・よく整頓管理された感じのよい学校
- ・児童も清潔な制服を着用し、礼儀正しくかわいい
- ・50人程度の児童が集められ話す機会を貰った(青木スピーチ)(3人の生徒が発言(通訳Savaii RC Taunese))
- ・寄付した絵本は図書室にきちんと納められていた
- ・児童に寄付した絵本は児童によく読まれており好評
- ・持参した土産(鉛筆セット、歯ブラシ:亀岡会員からの寄贈品、それぞれ約50組)を先生に手渡し、児童への配布をお願いした
- ・今後の援助継続を期待する雰囲気を感じた



7/13(月)

話をきく生徒たち

背景に寄贈した絵本の棚が見える

於:Sapapalii Primary School

4. Mata-Ae-Vaveカレッジ訪問(小学校に続き)(7月13日午前)

- ・小学校から車で約10分(途中で大きな教会)
- ・Savaii RC幹事 Tauneseさん同行
- ・Teenageの若者の教育機関  
大学前段階の教育機関、low teenの生徒もいる
- ・読書が教育上重要で本の充実に力を入れる
- ・当クラブの寄付金でよい本を集めることができた  
(絵本ではなく)(3,500Tala)ことを感謝された
- ・10名程度の生徒と短時間だが対話の機会をもてた  
(青木スピーチ)。指名されて最年少の女子が最後に発言
- ・校長のTaala他2、3名と挨拶交換
- ・今後の援助を期待すると云われた



生徒と対話

5. Savaii RC例会(臨時例会、昼食会)に出席(7月13日午後前半)

Savaii RC(会員数 13名)より○印の5名(男性2名、女性3名)出席

- 会長 ○ Lio Foleni
- 幹事 ○ Taunese Tuiletufuga (taunese0717@samoan.ws)
- 会計 ○ Matautia Richard Ah Chong
- Tuioti Oavid Mariner
- Ofa Ah Chong
- Papalii Sam Petaia
- Fiu Sanele Bentley
- Sivate Naseri
- Leo Schwalger
- Cecilia Schwalger
- Jolly Taulapapa
- Moelagi Jackson
- Kapeneta Sului



高地会長からバナーの贈呈

- ・バナー贈呈(Savaii RCへ)、バナー交換(Latinoamerica e-RCと)
- ・挨拶交換
- ・Savaii RC会員全員に手土産贈呈

6. Saleaamua小学校訪問(7月14日 10am～)

- ・今回のサモア訪問の主目的の小学校
- ・2回目の訪問
- ・学校関係者、先生、児童ら全員から最大級の歓迎を受けた
- ・まずschool committee(学校経営管理理事会)理事長他村関係者による古来伝統ののつとつた公式歓迎儀式  
… 歓迎する側、歓迎を受ける側全員が靴を脱ぎコの字型に床に座り理事長の長い祈りの詞(通訳をお願いしたが祭事なので不可とのこと)の後、被歓迎者全員が同じ器でそれぞれ祭酒を頂く。儀式は長く感じたが15～20分程度か。遠来の賓客に対する感謝の気持ちに満ちた厳粛な伝統儀礼。
- ・次いで大勢の子どもたち(1年～8年生)が待つ講堂に案内され、雰囲気は一変した。児童たちの歌と踊りを満喫し(我々も「手に手つないで」を返礼)、児童一人ひとりから我々へのギフト贈呈があり、我々からもギフト(文具セットと歯ブラシ)、文具セットは会長から一人一人に手渡した。全員が一体となったとても楽しい歓迎パーティだった。皆が握手を求めて来て、100人以上の手を握ったように思う。  
理事長より挨拶があり、青木より返礼の挨拶をした(Taunese通訳)

- ・公道から小学校までのでこぼ道の舗装整備などの援助の要望が先方からあった
- ・将来のこと。特に50周年記念行事についてはこれから考えて提案したい旨述べた
- ・昼食が用意され(何がよいか予め聞かれていたが)別室で頂戴した
- ・高地会長の発案で10万円(各人1万円、会長は2万円拠出)、小学校長に現金(日本円)で手渡し、寄付をした
- ・先生、生徒と再度握手のラッシュ、手を振る児童に見送られながら同校を後にした



児童に贈物を手渡す高地会長 於 Saleaamua小学校



Saleaamua小学校校庭に集合

【サモア関係者】

1. Mr. Marco Kappenberger

Past president of the R.C of Apia / Rotary E-club of Latinoamerica, President 2006～7

/ Honorary Consul General Consulate General of Switzerland

2. Maria Ines, wife of Mr. Marco Kappenberger

3. Li'o Foleni, President of Savaii R.C, 2009～10 / School Inspector, Savaii

4. (Mrs.) Taunese Tuiletufuga / Secretary of Savaii R.C.2006～7, 2009～10

5. (Mrs.) Maraea Slade, Past president of Savaii R.C,2007～8

6. (Mrs.) Tuimulu Amalisi / Saleaaumua Primary School (tel 685-759-5215) 校長

7. Dr. Leao Tuitama, Charter President of the RC of Savaii

/ Associate Ministers of the Government of Samoa

8. Lanu, wife of Dr. Leao Tuitama,

9. Dr. Sam Petaia, Charter President of the RC of Savaii

/ Associate Ministers of the Government of Samoa

10. Takayuki Tomihara / JICA Samoa Office

サモア現地での大歓迎と私の感慨

青木 高

遂に2回目のサモア訪問が実現した。家内もまた行きたいというので前回同様夫婦同伴の旅となった。

Saleaaumua小学校へはMG（マッチンググラント）資金の大半を投じて机、椅子、絵本を提供し、大変感謝されていた。お礼の宴を催したいとの招待も受けていた。しかし我々としてはすぐには行けないので、Savaii RCの方々とMarcoさんに代わりに祝宴に出席していただいた(2008年5月)。だから今回の訪問は大歓迎を受けるに違いないと思っていた。そして、実際に今回、下にも置かない最高級のおもてなしを受け、我々は大いに感激した。

小学校理事会の人達による古式に則った厳かな式典は、地域の人たちの我々に対する感謝の念を確かに強く感じさせるものだった。しかし、この式典に続いて催された大勢の児童たちと先生のホットな歓迎ぶりは、全く儀式とは対照的なもので、その鮮やかな場面のチェンジは、意図して演出したものではありませんが、とても素晴らしかった。こんなに子どもたちが喜んでくれているのをじかに見るのは最高の喜びだ、遠路はるばるやって来て本当によかったなど、それは、文句なしに旅の疲れを完全に吹き飛ばした瞬間でもあった。

一方、最初に訪問したSavaiiの小学校の場合、事情が大分違った。先ず、我々にはサモアに到着するまで何も知らされていなかった。60あるSavaiiの小学校の中からSavaii RCによって選ばれた7つの小学校に、我々は絵本を寄付した。7つ全部の訪問は無理だがせめてその2つ、3つは、実際に訪問して現場で子どもたちと話合ってみたいと思っていた。しかし幾つの小学校を訪問するか、それがどこの小学校かなど、事前情報は一切なし。私はやむを得ず独断でSavaiiに2日滞在を決め、あとは運を天に任せたのだが、不安は当然大きかった。だからサモアに着いて、私が一番会いたかった、Savaii RCのMGを実行した当時の幹事Tauneseが充分準備をして待っているとの全く予期しない朗報を貰ったときは嬉しいというより、では何故教えてくれなかったのかという疑問が先だった。それでも現地で待っていたのは、心からの歓迎で我々を迎えてくれたSavaii RCのTaunese幹事（何と彼女は今回2回目の幹事就任）と訪問した小学校の児童たちの笑顔と歓声だった。それは私の不安が強かった分、ことばでは到底表現できない安堵と感慨を私に齎した。絵本は立派な図書室に綺麗に整理された状態だったし、絵本の贈呈を喜んでくれた子どもたちはとても幸せそうだった。私の質問にはきはきと答えた女の子たちは利発でかわいらしかった。さらに近くの中高等学校への訪問のおまけがついたが、これはTauneseの特別配慮だったのだと私は了解した。

帰国後、彼女が私との連絡を避けていた当時の心情を示す手紙をくれた。その一節を紹介する。（次頁に続く）



「私は貴方に会えてこの上なく幸せです。私はMG#61313事業につき、ずっと気まずい思いでいました。貴方ともっと連絡をとらなければならないのにそうしなかったのだから、この思いはとても強かったのです。(Savaii RCの)Maraea会長は悪いことは皆私に押し付けてきたように私は感じていました。しかし私には平和が必要でした。事態の悪化を防ぐ最良の方法は、彼女とマルコに全部を任せ、私はその枠外に逃げることでした。マルコは中立でいたいのに私は彼と一緒に動くことをせず、マルコに申し訳なかったと思っています。」

かくして私の二度目のサモア訪問は私に予想以上の幸せと満足を与えてくれる旅となった。これもみな最初から最後まで真心こめて支援してくださったMarco, Maria Ines夫妻、そして献身的サービスを裏で用意していたSavaii RCのTauneseに心から感謝したい。



Saleaamua小学校 先生からの贈り物



大阪-淀川RC訪問団への歓迎儀式 Saleaamua小学校

## 参加者全員からの感想、意見

## サモア訪問感想文 会長 高地 健

とにかく私にとって慌ただしい旅行でした。と言いますのは、この旅行の直前に仕事で上海に1週間、その後高雄RC55周年記念行事と台北東海RC訪問参加で台湾に5日間と濃密なスケジュールをこなして日本に帰りました。その後すぐロータリー年度が替わり、会長としての準備もそこそこに初例会を迎え翌週にはサモアへと出発したのです。サモア訪問は2回目です。前はオーストラリアのシドニー経由でしたが、今回はニュージーランドのオークランド経由です。私にとってニュージーランドは初めての訪問なので、以前にも増してサモア訪問を楽しみにしていました。ニュージーランドのオークランドは想像通りの美しい町でしたが、思っていたより小さく見えました。空港も同じく首都の空港にしては小さく感じました。サモアの最初の滞在地である首都アピアへ着いた時は、日本を出て丸1日経っていましたので、さすがに疲れ切っていましたが、アピアのアギグレースホテルは2年前と全く変わらない様子で我々を迎えてくれました。その日の夜に最初の公式行事である歓迎会をE-CLUBのカップンバーガー夫妻とロータリアンの大臣夫妻を迎えて行いました。私にとって初めて英語の挨拶をしました。日本語でも挨拶は苦手なのに、英語でなんてと心で思いつつメモを見ながら汗だくで、とにかく終わることが出来ました。挨拶を終えた時、カップンバーガーさんが優しく Good English と言ってくれた時によりやく緊張が解けました。

今回のサモア訪問の主目的であるWCSマッチンググラントについては青木国際奉仕委員長のご尽力で、すべて報告書どおりで安堵しました。先方からは早速次回の希望があり、50周年の行事の一環として検討する事に成りました。

私にとって、サモアでの一番の思い出は、小学校の生徒たちがひとり一人手造りの民芸品を、我々に感謝の気持ちとして持ち寄ってくれた事です。多分、先生に言われて親が用意したのだと推測出来ますが、何人かの生徒は持って来ることが出来なかったようでかえって気の毒に思えました。参加者からの提案もあって早速参加者全員からお金を集めて、校長先生に生徒たちの役に立つ事に使ってもらう様に託しました。参加者の皆様にご負担をお掛けして申し訳ないと思っています。もうひとつ印象に残っているのが、世界の最西端の日没を見ることが出来たことです。

と言っても実際の太陽は雲のなかで見えなかったのが残念ですが、雲の合間の明るさが却って日没を想像させてくれました。最西端と言っても、日付変更線が地図上に有るからという理由だけです。どうってことは無いのですが、世界の最西端の日没と思っ て見ていると何だか地の果てへ来た様な不思議な気持ちになりました。

参加者の皆様方、大変お疲れ様でした。青木国際奉仕委員長、団長のお役目を首尾よく果たして頂きまして有難う御座いました。感謝申し上げます。



Saleaaumua小学校長と



みんなでダンス Saleaaumua小学校



Saleaamua小学校長、Marco夫妻と共に



Saleaamua小学校での歓迎パーティ

## サモア訪問

西崎 克由

太平洋の楽園、サモアを初めて訪れた。7月の中旬、南半球に位置するので乾季、冬にあたる。冬といえども、日中は30度を超える暑さだ。この国は、観光が主産業ではあるが、まだ他の島々（タヒチ・フィジー・バリ等）の様に、大手外国観光資本は参入しておらず、ホテルも三ツ星程度が最高ランクである。しかしながら、ほとんどの国民がキリスト教徒であり、イスラムのテロの可能性が低いため、今後バリ島に代わる観光スポットになり得る。それだけ素晴らしい自然を持った国・島々である。島民の生活は質素だ。お金は無くとも食べる物には困らない。残念なことに、貨幣経済が進むに連れ、この楽園にも貧富の差は存在し、またその落差も激しい。

今回の訪問で2つの小学校、1つのカレッジ（高校）を訪問した。サバイ島の小学校・カレッジは質素とはいえ校舎も綺麗で設備も新しく、生徒たちも利発そうだった。一方、Saleaamua小学校は先日の青木会員の卓話の通り、酷い状態にある。子供達も、無邪気で明るく、又、人懐っこく利発さでは変わらないが、他の2校と比較すると貧しさを感じる。

この小学校で我々は大歓迎を受けた。子供達から山のようなプレゼントを頂戴した。子供達一人一人が持ち寄ったようだ。しかしながらそのプレゼントを用意できない子供たち（15～20名）もいた。小学校に通うのが精いっぱいなのだろうか。この限られた社会のなかにも落差は存在する。

今回確認したマッチンググラントの成果には素晴らしいものがある。机、イス、絵本どれも子供達の役に立っている。我々の援助を子供達も、先生も、又親、大人達も感謝してもらっていると感じた。今後もこの援助を継続する事が大切だと思う。

50周年の記念事業としても何かを考えたい。援助に関して今後は暫くの間、Saleaamua小学校に特化してはどうだろう。机、イスのようなハード面のニーズも多数あるようだが、特に貧しい子供たちに奨学金を与える制度、ユニセフにあるような教育里親制度を設立できないだろうか。我々RCメンバーの一人が小学生一人ずつに月当たり1,000円の奨学金を援助するだけでも効果が期待できる。ハードとともにこのようなソフトの創設を記念事業として可能性を探っていきたい。

今回の訪問で子供たちの人懐こい笑顔が一番印象に残った。この笑顔を目撃した大人になっても絶やさなための援助を、我がRCとして会員共同で行っていききたい。

最後に、今回の訪問でお世話になった、Marco氏夫妻、サバイRCの方々、又訪問した学校の方々、高地会長、団長の青木会員、幹事役の西川会員そして参加されたメンバー各位に感謝申し上げます。



Saleaamua小学校の子供達



## 第2次 サモア訪問レポート

平田 達男

2004年5月、大阪で開催されたロータリー世界大会に参加する目的で来日された、マルコ・カップンバーガー氏と青木高会員との出会いから始まった当クラブの「サモア共和国」へのロータリーWCS援助活動“サモアプロジェクト”実施のため、オーストラリア・シドニー経由で現地へ向かったのは2006年4月でした。

今回はフライト便の変更でニュージーランド・オークランド経由にてサモアへ入国しました。南半球は、現在冬の季節、乗換え便までの半日ほどオークランド市内観光に出掛けました。7月とは言えその日は雨天のうえ風が強くて「防寒具」を着けなければならないほどの気温でした。サモアの東島首都アピアがあるウポル島へ着けば30℃の気温、たった一日半位の地域移動の内寒暖と地球の広さ、遠さを感じることができました。

第2回サモア訪問は現地の小学校を中心に援助を行ってきたロータリーWCS・MG事業終了に伴う現地査察を主体に、友好関係の推進と今後の援助方針の話合いのために9名のメンバーで出掛けました。前回の訪問に先駆け、また今回のプロジェクト終了までの約、5カ年の間に国際奉仕委員長を引受けて下さっている青木会員には、現地との連絡やり取りは勿論、関係機関との報告書の作成などは延べ100回を下らない作業のご苦勞があったであろうことを心から感謝申し上げたいと存じます。

## ◇マルコ夫妻との再会

マルコ氏とは既に何回かの出逢いはありましたが、マリア夫人とは3年ぶりの再会でした。ご自宅にお伺いしたらお元気で我々一同は明るく心のこもった歓待をいただきました。手作りのサモアランチを頂き、滞在中何回にもわたって島内の観光ガイド役のためご夫婦それぞれが4WD車のハンドルを握って案内をしてくださったご好意は私たちにはなかなか出来ないことです。また、別の日楽しい経験がありました。早朝に「魚市場」の見学に出かけた際、並んでいる大マグロ(ツナ)の輪切り身を見た松井義明会員が“刺身を食いたいな”といったら二日間契約していた現地ガイドの運転手Mr.ポール氏が「家へお出でよ、女房に料理させるよ」と自宅に招待され、他に買い求めたウニ、コノワタ、シャコ貝などもある豪華朝食に有りつけたラッキーな出来事と彼の家族、子供・孫たちとの楽しい出逢いがありました。



## ◇サモア西島 Savaii サバァイ島の訪問

前記のロータリーWCS・MG事業の援助先が前回行けなかった西島の学校にもあるためフェリーボートにて1時間半ばかり離れたサバァイ島に渡り、その日の夕刻、同島の西端が日付変更線である海岸線まで出掛けましたが天候が優れず、有名な太陽の日没を見ることは出来ませんでした。翌日、同島を半周後、小学校並びにカレッジ訪問後、Savaii RCを訪問、臨時に開いて下さった例会に出席しメンバーとの交流時間を持つことが出来ました。



現地ガイドの運転手Mr.ポール氏のお宅でご家族と共に

## ◇ウポル島 Saleaamua小学校の再訪問

襲来したサイクロンの被害の直後で半壊滅状態となっていた前回のサモア訪問先であるSaleaamua小学校をサモア最終日に訪れました。子供達は勿論、学校関係者全員が私たちを待っていてくれました。

まず、前回贈った児童用の木製学習机と椅子や学習図書が並んでいることを確認しました。しかし、その数は子供たちのまだ三分の一程度であり、足りない状態のようでした。教室の窓に嵌っている筈の

ガラスはまだ全然修復されていない素通しのままでした。教室の天井に付いている蛍光灯ランプは20W球のもの、たった1箇所のみ寂しい照明しかありません。3ヵ年も経てば小学校の設備は少しは良くなっていることを期待していましたがそこまで回せるお金はなかったのでしょうか。持参した子供たちへの文房具、僅かな物でしたが素直に喜んでくれました。子供たちの輝く目、笑顔溢れる明るい姿は本当に忘れられません。

このSaleaamua小学校はウポル島の東端の海岸の貧困の村にあります。サバアイ島で訪れた学校の設備と比べたら同じ共和国の中にありながら余りにも落差があり過ぎる貧しさを感じられるのはどうしてでしょうか。地域の村長などの政治力が足りないのかもしれませんが、大きな援助でなくても助けて上げたい？ものは無数にあるようです。出来れば大阪・淀川RC・クラブ創立50周年記念事業にSaleaamua小学校施設充足予算を是非とも組入れていきたいと考えています。ありがとうございました。

## 駆足サモア訪問短記

松井 義明

南太平洋の孤島サモアの首都アピアに8月11日未明到着。15日の夜に同島を離れるまでの4日間、車で全サモア踏破した道すがら景色の中でずいぶん日本とは異なる種々の熱帯植物を目に写るまま羅列してみた。やはり南洋の3大木の椰子の木、バナナの木、檳榔樹(ピンロウの樹)が自生、植林を問わず目に入る。そしてそれらの間をパンの木、パパイヤ、大きなタコの木が整然と生えてそれぞれ勝手に実をつけている。積榔樹(ピンロウの樹)はその巾広で長い葉っぱを編んで床に敷く敷物・籠・帽子などに使われる、パンの木はBread fruitと言うようにその実はフランスパンの如く多孔質の果実でホテルの晩餐会でも出されたがスープ、ソースにつけるとグーであった。タコの木は、割合丸い茂みで枝木の根元は十数本の太い根が地上より顔を出し正しくいぼいぼの無い蛸の足そっくりであった。白い、赤い、黄色い花を咲かす木々も点在していた。白い花はジャスミンでホテルのウエルカムフラワーにも使われており甘い香りが特徴で私は帽子の中に入れて楽しんだ。赤い花はハイビスカス・のうぜんかずらとかブウゲンビリアの花が多かったようだ。黄色い花の名前は不明であった。

海岸線に沿って浜木綿の白い花が沢山咲いていたが、丁度日本と同じ時期に咲いているのが面白かった。パンの木があればパンヤの木というものもあり、これは3日目にSavaii島の踏破をした時Savaii島で一番北にある。即ちサモアの最北端にあるSaleaula村でMatavanu火山が103年前に噴火したがその時に火山から流れてきた溶岩でここを含む5つの村が埋まり海岸にあった教会も半分埋まってしまったが人身御供として村の乙女が溶岩に身を投げてその噴出を止めたという、その時出来た穴がVirgin's Grave(乙女の墓)という名前で残っているもので、その見物のとき木から緑色の太いキュウリのような実が沢山ぶらさがっていたがそれがパンヤの木であった。これが熟して黒く枯れてくると中の繊維を取り出し枕の中に入れると丁度具合の枕が出来るといふ、Silk Cottontreeと云われる所以だ。またその時ノニの木もあり熟した白い実を失敬したが噛んでみても全くおいしいものではなかった。この実から造ったノニのジュースは日本では1本3千円以上する健康飲料である。以上の木々は全く自生しているものである。Upolu島、Savaii島は当然火山であるため平地は少ないのであるが、平地・山地をとわず自生、栽培をしているのがタロイモであり日本のさといもと同じであり当地の主食である。これを蒸して食するのであるが全く堅めの大きい味の無いさといもである。主食であるゆえ味の無いほうが良いのであろう。熱帯で年間雨量が3千ミリをこえる当地では良く育つのである。興味深いことにコアラの食べ物であるユーカリの木が全く無いことである。同じ南太平洋にあるオーストラリア大陸とはでき方が全く異なることによるものだ。それゆえコアラもいなかった。また波打ち際には以外とマングローブは少ない。これは同島が若い火山島で海岸に珊瑚が砕けてできた真っ白い砂はあるもののマングローブの好きな泥が少ないことによるものらしい。それゆえヤシはあってもヤシガニは少ないらしく朝の魚市場でも出ていなかった。我々の泊まったAggie Grey's Hotel また Upolu 島の最東端にある Saleaamua 小学校にも多く飾られていたが、赤い肉質が特徴の花はサモア独立国の国花であるアナナスの花であった。その他、思い出しながら記するに、サンセベリア(千歳蘭)・アジアンタム・コルデリーネ・クロトン・ドラセナ・ハイビスカス・大きなシダ・ツワブキ・大きなしゅろなどがみられた。またマルコ邸で食事の後いた

(次頁に続く)

だいたレモングラスティーは庭に生えていたレモングラスを切ってすぐに立てたもので格別に香り良く美味であった。

2004年1月にサモアは大きなサイクロンHetaにみまわれ大きな木々も随分被害を受け倒れたため巨本は少なかったが木々の成長が早いため一見被害を思わせるものは見られなかった。以上のような植物相であったが道すがらどこでも見られたのが豚、鶏、犬が仲良く放し飼いされていたのと豚の小さいのが特徴で成熟した親豚でも日本の子豚くらいの大きさであった。そして男女を問わず太くて大きな人が多かった。今回の訪問について青木さんの用意周到で緻密な計画とマルコさん御夫妻のつきっきりのお世話、そして運転手のピーターポールの献身的案内もあり全く楽をさせてもらった。



地球上で一番最後の日暮れ



原生のヤシの実



魚市場の魚 ハタの一種 沖縄ではアカミーパエという



Upolu島の浜辺

今回のサモア訪問について 木戸 友三郎

私は大阪・淀川RCのMemberの中ではfresh man の部に入り、今回のサモア訪問の目的を熟知できないままに出発したので、不甲斐ない経験になったと感じています。でも、我々のgroupの中で最年長であるため、何かと皆様の迷惑になるのでは気を遣いながら、逆にThe youngest man と恰好よく振舞って来ました。しかし、サモアの食事はビール以外は今一つであったことは残念でした。但し、太平洋の鮪の漁場に近い関係か、鮪の刺身は逸品でした。結構、日焼けして無事に帰国しました。最後にマルコ夫妻、サモアのロータリアンの親切な応対は大いに感激致しました。



7/13(月) 多忙なスケジュールの中、ちょっと一休み



Saleaaumua小学校 校庭にて



第2回サモア訪問2009年7月10日～16日の思い出

訪問団会計担当：西川 正一

- ①まずは、国際奉仕委員長：青木氏の大きいなる尽力がなければ、今回のサモア訪問は成功に導かれなかったであろうと私は考えております。現地サモアの関係各位との事前打合せには相当な時間と労力を割かれました。敬意と謝意を表します。
  - ②参加された9名の皆さんにはそれぞれの役割を果たして頂き、密度の濃い旅程にもかかわらずスムーズに訪問旅行を終えることが出来ました。何と言っても事故やけが、盗難などが起きなかったことが今回の成功を証明していると思います。
  - ③最大の目的であった前回訪問後の1年間以上にわたる学校援助の実態を、今回の訪問で現地にて確認し、あわせて関係各位との交流(小学生の歓迎式典も良かった)を図れたことがもっとも大きな成果であると思います。
  - ④会計を担当した立場から申し上げますと、当初私が想定していたものよりも、旅行コスト(宿泊代、航空運賃、食事費用、現地でのガイド・交通費用など)は少なくて済みました。マルコ・カップンバーガー氏には随分助けて頂いたようにも思います。おおよそ4・5万円は節約できたのかなという実感です。
  - ⑤日本⇄サモア国の往復移動には大変な時間を要しました。乗り継ぎの不便さが一番の理由ですが片道でおおよそ1日半かかりました。もし関西空港から直行便があれば、片道10時間ほどの距離であります。
  - ⑥ニュージーランド経由でしたから、半日の滞在＝観光の為に冬の服装が必要でした。その分荷物がかさんだのは事実です。現地に寒波でも来ていたらもっと大変だっただろうと思う。
  - ⑦アギーグレイホテルでの晚餐での晩餐会、ウボル島での小学校と中等学校訪問とその後の現地ロータリアンとの昼食会、サレアウムア小学校での歓迎式典と昼食会が今回のメイン行事でしたが、いずれもうまく事が運んだと思います。私は、特にサレアウムア小学校での歓迎式典が印象深くて愉快なものでした。貧しい学校ではありますが、小学生たちの人懐っこい笑顔がいいです。
- 以上、私の報告と致します。



寄贈した机・椅子の座り心地は？

サモア訪問グループに参加させていただいて

青木 敏子

7月10日からのサモア、サヴァイイ訪問に同行させていただき、美しい島の紺碧の海や空を満喫できましたこと、心から感謝しています。

訪問した2つの小学校の環境は対照的でしたが、どちらの子供達も輝いて好奇心にあふれる可愛らしい目は一生忘れることが出来なんでしょう。

また私たちの訪問に感謝して歌ってくれたことも感動的でした。強行スケジュールでしたがとても有意義な旅だったこと、同行した皆様にお礼申し上げます。



Marco邸 庭で

エキサイティング サバイ!

西崎 千加

海外経験の数少ない私が、いきなり世界で最後に日の沈む南半球の国へ。期待と不安でいっぱいの中、今回ロータリアンの皆様とともにサモア訪問の旅に初めて参加させていただきました。首都アピアのあるウポル島からさらにフェリーで一時間半、サバイ島の手付かずの雄大な自然は驚きと感動の連続でした。案内のピーター・ポールさんの運転で、ガタガタ道を飛ぶようなスピードで広い島を回り、訪れたブローホールは海岸に広がる溶岩源で、10m以上吹き上がる波の噴水は思わず叫びたくなるほど迫力満点でした。そして最後のサンセットを目指してムリヌウ岬へ。

(残念ながらタイムリミット!) 静かで真っ黒なサバイ島で過ごす夜は(虫と奮闘しながらも)沖の岩礁に打ち寄せる恐ろしいほどの波音が今も耳に残っています。

サバイの小学校とカレッジの訪問は突然にもかかわらず大成功の感触であったのこと。子供達のキラキラした目が可愛らしく、素晴らしい歌のプレゼントは感動的で、この子供達が素朴なこの島で大きく成長するために何か出来る事はないか。又、物の溢れた日本の子供達を思い、反省させられる光景でもありました。

今回皆様のご尽力で成立されましたこのプロジェクトに同行させていただき、数多くの貴重な体験をさせていただきましたことを本当に感謝いたします。又、今後地道なこの活動が、皆様のお志とともに実を結はれますことをお祈りいたします。



7/11(土) Marco邸で Maria Ines夫人を囲む

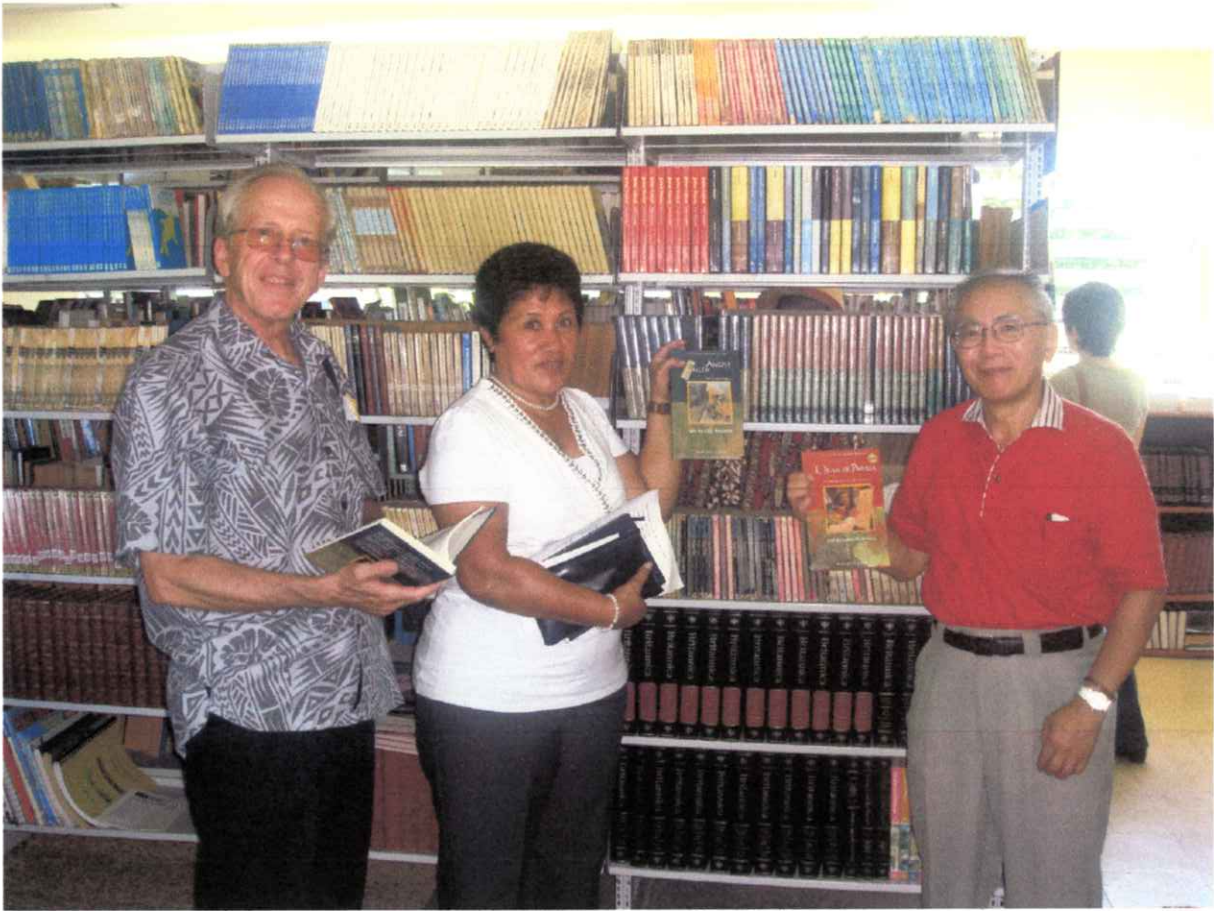




7/11(土)公式夕食会で挨拶 左は Leao Tuitama夫妻(内閣副大臣)



7/12(日) 早朝のApia Fish market で



7/13(月) Mata-Ae-Vave 校への寄贈図書を手にとって



7/13(月) 児童達に手土産に持っていった鉛筆削りの実演 左の女性は Savaii RC幹事 Tauneseさん

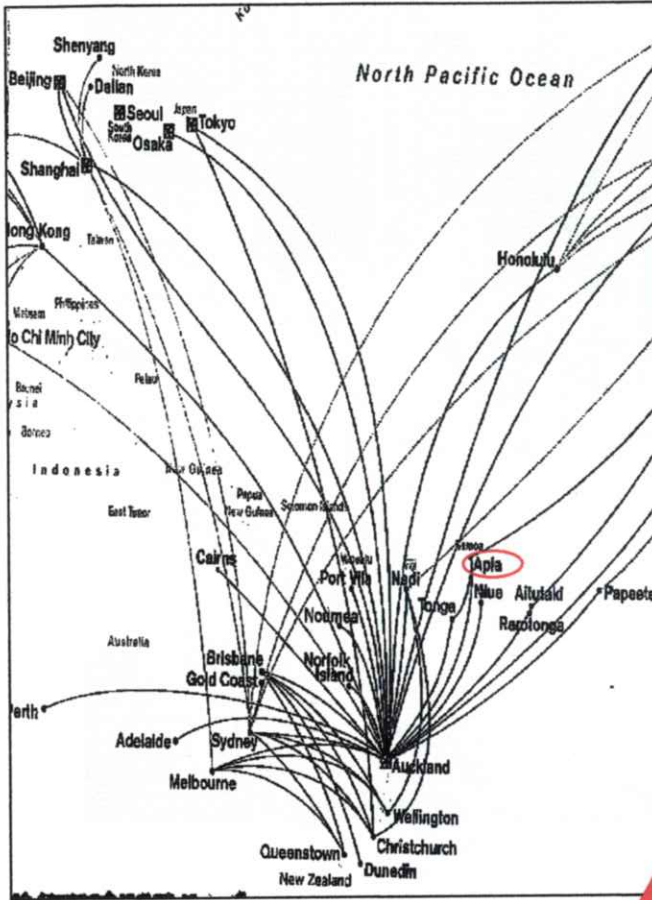


7/14(火) 昼食会 於 Saleaaumua小学校

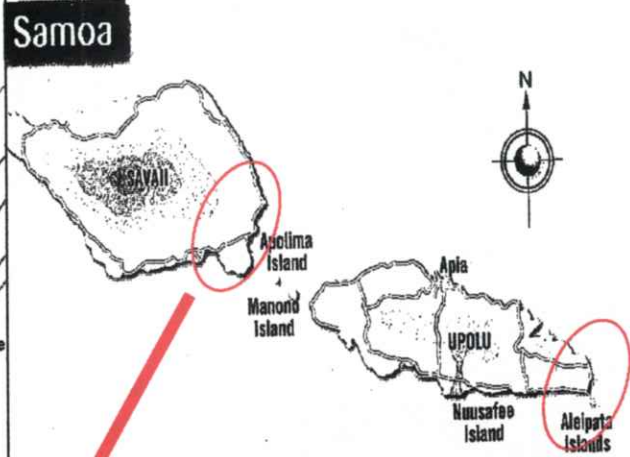


7/14(火) Apia空港で見送りのMarco夫妻と共に

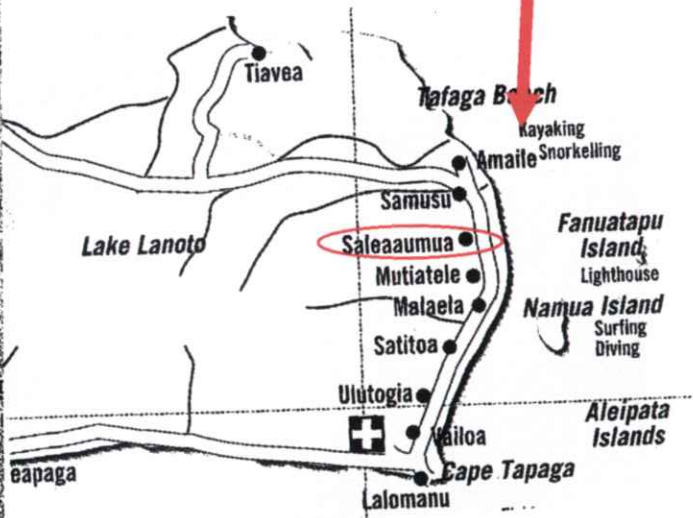
(図1) 遠いサモア



(図2) Upolu島とSavaii島



(図3-1) Savaiiの南東部



(図3-2) Upoluの東端



ロータリー 四つのテスト

われわれがものごとを考え、言い、また為そうとする場合は、これに照合してから。

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか